

子どもの心に平和の種まこう 広島、長崎市長ら訴え

枚方平和シンポに600人 3/7 Y



4市長が平和教育への考えを述べ合った
パネル討論（枚方市の大阪歯科大で）

6年生113人が「戦争は絶対にしてはいけない」など平和へのメッセージを発表し、客席や各市長から大きな拍手を受けていた。

被爆地の広島、長崎市の両市長らを招いた「ひらかた平和教育シンポジウム 平和な未来を子どもたちに」（枚方市、市教委主催）が6日、枚方市の大阪歯科大で開かれた。平和教育のあり方などについて、講演やパネル討論があり、「核兵器のない平和な未来を子どもたちに届けるため行動していくことを誓う」との緊急アピールを採択した。

かつて三つの陸軍施設があった枚方市は、平和の大切さを伝える取り組みを推進。シンポジウムは、昨年5月、竹内脩市長が米ニューヨークでの核兵器不拡散条約（NPT）再検討会議に合わせて渡米、両市長らと活動を共にしたことなどから実現した。

加。講演では秋葉忠利・広島市長、田上富久・長崎市長が、中高校生らの取り組みを紹介。竹内市長や神奈川県藤沢市の海老根靖典市長を交えたパネル討論では、田上市長が活動継続の大切さを強調し、「子ども心に平和の種を植えることが大人の役目」と発言。竹内市長は「若い先生が広島、長崎を訪問するなどし、自分の問題として考える研修をしていきたい」と述べた。

次期市長選へ不出馬表明している秋葉市長は司会者から今後の活動について問われ、「原爆や核兵器廃絶に50年以上かかわっており、何らかの形で続けていくことになると思う」と話した。

また、枚方市立樟葉西小

被爆地 語り継ぐ平和

広島・長崎市長招きシンポジウム

枚方 核廃絶アピール採択



被爆地の広島・長崎の両市長らを迎え、平和の尊さをどう伝えるかを探る「ひらかた平和教育シンポジウム」が平和な未来をこどもたちに「枚方市・同市教委主催」が6日、枚方市楠葉花園町の大阪歯科大楠葉学舎であり、約600人が訪れた。各市での平和教育活動が紹介され、最後に「核兵器のない平和な未来のため、行動することを誓う」とした緊急アピールを採択した。

初めに被爆地での平和教育の取り組みが報告された。広島講演する秋葉・広島市長（左）と田上・長崎市長（左から2番目）。右端は竹内・枚方市長。枚方市楠葉花園町

島市の秋葉忠利市長は、平和への意見などを発表する「こどもピースサミット」や被爆者の体験談を絵にする高校生者の活動などを取り上げた。長崎市の田上富久市長は、核兵器廃絶を求めて署名活動する高校生の活動とともに、その合言葉「微力だけど無力じゃない」を紹介し、「小さな力が集まることで、世界を変えることができる」と呼びかけた。

続いて、枚方市の竹内脩市長や神奈川県藤沢市の海老根靖典市長も加わり、平和教育の今後についてパネル討論。広島市の秋葉市長は「今の若い世代は、被爆証言を直接聞くことができる最後の世代。未来に引き継いでもらいたい」と指摘した。また次世代の代表として、枚方市立樟葉西小学校6年生約110人も登壇し、広島市への修学旅行や平和学習の成果を踏まえ、平和への願いを託した歌やメッセージを披露した。（小池暢）

平和教育の試み紹介

2/7M

枚方でシンポジウム 広島、長崎市長ら招き

今後の平和教育のあり方を考えようと、枚方市は6日、同市楠葉花園町の大坂歯科大で、広島市、長崎市の両被爆都市の市長らを招き、シンポジウムを開いた。「枚方市平和の日(3月1日)」記念事業の一環で、市民ら約600人が参加した。昨年5月の核拡散防

止条約(NPT)再検討会議に合わせ、枚方市の竹内脩市長が日本非核宣言自治体協議会副会長として訪米した際、秋葉忠利・広島市長、田上富久・長崎市長らと平和行進などをしたのが縁で実現。同協議会副会長の海老根靖典・神奈川県藤沢市長も出席し、各市長は

核兵器廃絶に向けての市の取り組みや紙芝居などを使った市の平和教育を紹介した。秋葉市長は「今の子どもたちは、戦争体験者の声を直接聞ける最後の世代」として、「時代の変化に対応した平和教育を」と主張。田上市長は平和教育を続けることの重要性、

平和への思いを行事など具体的な仕組みにすることの必要性を強調した。竹内市長は、市内で1939(昭和14)年に約700人の死傷者を出した軍需施設・禁野火薬庫爆発事故を説明し、「戦争の記憶が風化する中、子どもたちに平和について自分

で考える力を身に付けさせたい」と話した。参加者はシンポジウムの最後に「核兵器のな

い平和な未来を子どもたちに」と題したアピールを採択した。

【土本匡孝】



平和教育のあり方をテーマに意見交換する枚方市の竹内市長(右端)や広島市の秋葉市長(左端)ら一枚方市の大阪歯科大学で

2011年(平成23年)2月19日(土)

平和教育のあり方をテーマに意見交換する大阪府枚方市の竹内市長(右端)や広島市の秋葉市長(左端)ら一枚方市の大阪歯科大で



大阪で平和教育シンポ

「今の子は戦争体験者の声を直接聞ける最後の世代」

秋葉市長

今後の平和教育のあり方を考えようと、大阪府枚方市は6日、同市楠葉花園町の大阪歯科大で、広島、長崎両市長らを招き、シンポジウムを開いた。「枚方市平和の日(3月1日)」記念事業の一環

で、市民ら約600人が参加した。昨年5月の核拡散防止条約(NPT)再検討会議に合わせ、枚方市の竹内脩市長が日本非核宣言自治体協議会

副会長として訪米した際、秋葉忠利・広島市長、田上富久・長崎市長らと平和行進などを

長も出席し、各市長は核兵器廃絶に向けての市の取り組みや紙芝居などを使った市の平和教育を紹介した。

秋葉市長は「今の子どもたちは、戦争体験者の声を直接、聞ける最後の世代」として、

「時代の変化に対応した平和教育を」と主張。竹内市長は、市内で1

「核兵器のない未来を」アピール採択

939(昭和14)年に約700人の死傷者を出した軍需施設・禁野火薬庫爆発事故を説明し、「戦争の記憶が風化する中、子どもたちに平和について自分で考える力を身に付けさせたい」と話した。最後に「核兵器のない平和な未来をこどもたちに」と題したアピールを採択した。

【土本匡孝】